

商業の復興

手を取り合って立ち上がった事業者たち



▲福島市は、毎月大勢の来場者でにぎわった。(2011（平成23）年11月4日)

南三陸町の6割の建物が被害を受けたことによりほとんどの店舗が失われ、商業の再建は、極めて困難と思えた。事業者たちはさまざまな補助事業を活用し、事業者同士助け合い協力し合いながら、再建へと歩み始めた。

中小企業基盤整備機構による仮設商店街への支援やグループ事業補助金は大きな力になった。複数の事業者がグループを組織し、互いに知恵を出し合い経営計画を立て、再建への足がかりにした。

一時は、再建を断念した経営者たちも「もう一度やってみよう」と前向きな気持ちを取り戻すことができた。それに加えて、多くのボランティアが南三陸町を訪れて積極的な消費行動を進めてくれたことや被災地のものを購入して支えようという社会の流れが、経営再建を後押しした。

特に南三陸福島市や仮設商店街は、事業者たちが持ち前の明るさとおもてなし精神を遺憾なく発揮する場となった。手を取り合って頑張る事業者たちの姿に多くの人たちが心を動かされ、交流が深まる好循環が生み出された。その交流は、南三陸ファンを全国に作り出すことにつながり、事業の再生を助けるだけでなく、まちづくりの活力にもなった。

志津川地区の仮設南三陸さんさん商店街は、被災地の復興をリードする商店街として数々の表彰を受け、天皇陛下にも行幸いただいた。

この実績を本設商店街につないで、人と人との出会いと笑顔を生み出す場として、心あたたまる商店街を目指し続けている。



▲2017（平成29）年3月3日に本設の南三陸さんさん商店街がオープンした。



▲8店舗でスタートしたハマレ歌津は、開放的な雰囲気の商品街となった。